

日本デジタル教科書学会 2013 年度年次大会

日程：2013 年 8 月 17 日（土）～18 日（日）

会場：大阪大学 豊中キャンパス

発表申込：口頭発表(8/17)、実践発表(8/18)、ポスターセッション(8/17)を受け付けております。

<http://js-dt.jp/convention/2013/proposal.html> をご覧ください。

大会詳細について、最新情報は <http://js-dt.jp/convention/2013/> をご覧ください。

1. 研究会のご報告

■東京研究会報告「デジタル時代の空間・位置感覚と教育」

第 1 部では寺尾敦氏（青山学院大学）による「デジタル時代の教育実践研究」では、デジタルメディアを用いた教育について量的な研究と質的な研究とのバランスについて報告があった。また第 2 部では高橋真知氏（ATR Creative 代表取締役社長）による「位置を起点に、様々な時代・テーマで地域を知る、絵地図モバイルサービスの実践」と題して、アプリ「地図ぶらり」の教育、地域での活用について報告と、田村建士氏（レイ・フロンティア株式会社代表取締役）による「2012 年の主な AR 活用事例と、今後予想される教育現場での AR の活用について」と題して、AR 技術の教育利用への可能性についての報告がなされた。パネルディスカッションでは、近年の技術開発・ビジネスの面からさまざまな画期的なアプリ・サービスは教育活用においても大きな可能性を示している一方で、それを受け入れる側である学校の環境といったハードだけではなく、その教育をどのように評価するのか、あるいは教育自体をどのように捉えるのかといった研究面も含め、受け入れ側の意識や枠組みの整備が求められていることが議論された。（実践女子大学准教授 松下慶太）

■新潟研究会報告「Edu × Digi Festa 2013 Niigata」

2013 年 2 月 10 日、「日本デジタル教科書学会」発足の地である新潟において、新潟県教育委員会、新潟市教育委員会を始め、多くの後援をいただき、研究会を行った。会場「ときめいと（新潟大学駅南キャンパス）」には、全国から 90 名余りの参加者が訪れた。前半は、「新潟からデジタル教科書の未来を発信する」と題し、副会長である上松恵理子氏のコーディネートのもと、2つのシンポジウムを行った。「デジタル教科書実践の可能性と課題」では、原田完二氏（見附市立今町小学校校長）、長谷川春生氏（富山大学）、清水雅之氏（上越教育大学）、若林徹氏（新潟市マイスター認定教員）から御登壇いただき、現場目線の議論がなされた。「デジタル教科書の可能性」では、水落芳明氏（上越教育大学）、北村順生氏（新潟大学）、一戸信哉氏（敬和学園大学）、林向達氏（徳島文理大学）により、アカデミックな議論がなされた。



後半の、研究&実践発表「新潟発！学習者用デジタル教科書実践」では、学習者用デジタル教科書端末を活用した最先端の実践が 10 本発表された。以下、発表者を挙げる。（以下、敬称略）山本政義（デバイス論）、片山敏郎（国語）、大関正人（算数）、石月直敬（理科）、広瀬一弥（ICT 論）、上村修（理科）林俊行（英語）



活動) 稲田健実(特別支援)、上越教育大学附属中学校(フューチャースクール)、関川村立関川小学校(ICTフィールドトライアル)、燕市立吉田南小学校(ICT絆プロジェクト)

企業ブースも6社から出店いただき、活況を極めた。更に、夜の懇親会 Night Party「新潟の夜を楽しもう」にも、50名以上の参加をいただき、大いに盛り上がった実りある1日となった。

(新潟大学教育学部附属新潟小学校教諭 片山敏郎)

■佐賀研究会報告「ICT絆プロジェクト公開研究会」

2013年1月30日(木)、佐賀県佐賀市立若楠小学校にて、学会と佐賀市教育委員会との共催による「ICT絆プロジェクト公開研究会」を開催いたしました。地方自治体と県内外から110名の多彩なメンバーのご参加を賜りました。

6年生国語「伝えよう、大切にしたい名言」の公開授業は、自分の好きな名言についてどのようにしたら友達に伝えることができるか、協働学習を取り入れた実践でした。話し合うことで自分の考えを再構成し、なぜその方法を選んだのか理由や根拠を明確にもちながら、紙や端末も含め伝える道具を児童自身が選びました。

研究会では、佐賀県ICTスーパーティーチャー赤松小学校の横地教諭、同じくスーパーティーチャーで西与賀小学校の大家教諭、武雄市でiPadの利活用研究を行っている武内小学校の白石教諭による実践発表とパネルディスカッション、片山会長による講演を行いました。学習者用端末は、教科学力や情報活用能力、情報モラルをそれぞれ単体としてではなく統一的に学べるという点で大きな利点があり、整備の必要性についてあらためて考えさせられる研究会となりました。次回は2014年1月24日(金)。4本の授業公開を予定しておりますので、是非ともお越しください。



(佐賀市立若楠小学校教諭 内田 明)

■大阪研究会報告「教育現場でのiPad活用を考えるワークショップ」

2013年1月26日15時より、大阪にて本学会主催「教育現場でのiPad活用を考えるワークショップ」が開催された。大阪心斎橋のAppleStore Shinsaibashiにおいて、小学校と大学でのiPadを活用した教育について事例発表とワークショップ。また、医療現場でのiPad活用について発表があった。

まず本学会紹介ののち、広瀬一弥(京都府亀岡市立南つつじヶ丘小学校)より、「児童の表現活動におけるiPad活用実践」と題し具体的な4つの実践事例を紹介した。その後、「iMovie」で、アフレコを含む映像づくりのワークショップを行った。

次に岩居弘樹(大阪大学)より、「iPadでドイツ語を学ぶ」と題したドイツ語アクティブラーニング実践例を紹介し、iPadアプリ Explain Everythingを使ったスライド作成のワークショップを行った。

最後に杉本真樹(神戸大学)より「iPadによる人間学」と題して、デジタル時代の今こそ、人を動かすプレゼンテーションを教育者が行い、人間とは何かを共に考えるべきと提言した。

会場は約30席が満席となり、当日AppleStoreShinsaibashi会場へ偶然立ち寄り興味をもった立ち見客も含めた、100名以上の聴衆により活発な討議と意見交換で大盛況だった。

(京都府亀岡市立南つつじヶ丘小学校教諭 広瀬一弥)



2. 研究会のご案内

教育における情報化に関する研究会

2013年6月29日（土）13:00～17:00

場所；ゆうキャンパス・ステーション

山形市香澄町1-3-15 山形むらさきわビル1階

主催；東北文教大学 協力；日本デジタル教科書学会

プログラム

12:30 受付

13:00 開会の挨拶

13:05 主催者挨拶

13:10 講演

・眞壁 豊 (13:10～13:30)

「教育の情報化の現在と未来」

・鈴木 伸治 先生 (13:30～14:20)

「開かれた学校づくりを学校HPから」

・・・・・・・・・・休憩 (14:20～14:40) ・・・・・・・・・・

・片山 敏郎 (14:40～15:30)

「21世紀を切り開く子供を育てる～デジタル端末を活用した授業づくりの可能性～」

・石山 志保 先生 (15:30～16:20)

「フューチャースクール推進事業参加校となってわかったこと」

・・・・・・・・・・休憩 (16:20～16:30) ・・・・・・・・・・

16:30 全体質疑

16:55 閉会の挨拶

参加費

無料

申し込み／問い合わせ

①申込締切：平成25年6月21日（金）

②申込方法：FAX、お電話、メールでお申し込みください。

東北文教大学 児童教育研究センター（教職実践研究センター付）

TEL：023-688-6852（担当：一刀） FAX：023-688-6438

E-mail：t_itto@t-bunkyo.ac.jp



Diginnovation Festa in 札幌

日本デジタル教科書学会研究会

2013年6月29日(土) 10:00~17:00

ホテルライフオーソ札幌(札幌市中央区南10条西1丁目)

主催: 日本デジタル教科書学会

共催: 一般社団法人デジタル表現研究会(D-project)

後援: 北海道メディア教育研究会

申し込み <http://kokucheese.com/event/index/93391/>

プログラム

10:00 開会

10:20 講演 「(仮) デジタル教科書がもたらすこれからの教育」

上松恵理子(学会副会長、武蔵野学院大学)

11:10 実践発表 朝倉一民(札幌市立屯田北小学校) 他

12:00 昼食・休憩

13:15 ワークショップ

A デジタル教科書・教材活用について考える

松下慶太(学会研究委員長、実践女子大学)

B ロイロノート(iPad)でデジタル表現

岩居弘樹(学会大会委員長、大阪大学)

C ピッケのつくるプレゼン(タブレットPC)でデジタル表現

山田秀哉(学会広報委員長、札幌市立稲穂小学校)

15:30 パネルディスカッション

上松恵理子(学会副会長、武蔵野学院大学)

松下慶太(学会研究委員長、実践女子大学)

岩居弘樹(学会大会委員長、大阪大学)

山田秀哉(学会広報委員長、札幌市立稲穂小学校)

16:30 閉会

参加費

本学会員 500円(主催・共催・後援 各団体会員含む)

一般参加 1,500円

申し込み/問い合わせ

申し込み <http://kokucheese.com/event/index/93391/>

問い合わせ 実行委員長 山田秀哉(札幌市立稲穂小学校 011-694-4781)



3. 学会誌「デジタル教科書研究」への投稿のご案内

「デジタル教科書研究」は、研究者と実践者の自由な発想に基づき、デジタル教科書の発展の場として機能すること願い、日本デジタル教科書学会の学会誌として刊行します。

これまでに、投稿・審査規定を作成し、ホームページで公開 (<http://js-dt.jp/journal/regulation.html>) していましたが、以下の通り論文を募集することになりましたので、ご案内いたします。

みなさまのご投稿をお待ちしております。

投稿開始：2013年6月17日 投稿締切：2013年10月31日 お問い合わせ：edit@js-dt.jp
投稿フォーマット、投稿票は <http://js-dt.jp/journal/index.html> よりダウンロードしてください。

「デジタル教科書研究」では、学会誌に求められる信頼性を保ちつつ、自由な発想を積極的に支援したいと考え、次の3点を編集の特徴とします。

- 原著論文については、関連する学術領域に認められる一定の学術的水準を求めます。依拠する学問的立場に基づき、十分に信頼性が認められることが、論文掲載の条件です。
- 報告論文については、デジタル教科書の発展に寄与する特長があり、その点が明確に記述されていれば、その特長を積極的に評価します。たとえば、原著論文ほどの厳密性はなくても、工夫された教材作成例や実践例、今後の参考となる調査報告等が該当します。
- 実践研究を積極的に評価します。そのために、原著論文、報告論文ともに「実践研究」のカテゴリーを設けています。たとえば、実験段階の理論を実践的に応用した研究、新しいアイデアの実践的検証等が該当します。

実践研究の発表の場を求める先生方、新規なアイデアを紹介したい研究者の方、デジタル教科書研究およびその周辺領域研究に関わるみなさまの積極的な投稿をお待ちしています。（編集委員会）

日本デジタル教科書学会 設立記念報告集について

日本デジタル教科書学会では、2013年3月29日、「設立記念報告集」を発刊いたしました。会員の皆様には、本会に登録いただいているメールアドレスの方へ、ダウンロード用URL、パスワードなどをご案内しております。ご不明な点などあれば、事務局 (office@js-dt.jp) までメールでお問合せください。

